

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年生は目標値(△1.2)を上回っている。
- ・2年生は目標値(▽9.8)を下回っている。
- ・3年生は目標値(▽1.5)を下回っている。

(2) 課題

- ・1年生：多くの分野で目標を上回っている。水溶液の性質(▽17.1)、電気の利用(▽8.5)は目標値を下回っている。
- ・2年生：多くの分野で目標を下回っている。特に化学分野(▽6～15)と地学(▽7～13)は目標値を下回っている分野が多い。
- ・3年生：多くの分野で目標値を上回っている。化学変化と物質の質量(▽8.3)、前線の通過と天気の変化(▽13.1)では目標値を下回っている。観点別では、知識・技能(▽2.7)目標値を下回っている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体的に目標値を上回っている。電気の利用、水溶液の性質の分野が低い。		
第2学年	全体的に目標値を下回っている。粒子、生命、地球の分野に特に課題が多い。基礎的な内容の学習から課題がある。	全体的に目標値を上回っている。動植物のからだのつくりとはたらき、生物と環境、水溶液の性質の分野がやや低い。 (第1学年時)	
第3学年	全体的に目標値を上回っている。活用の分野で目標値を上回っている。化学変化と物質の質量、気象の分野が低い。	全体的に目標値を上回っている。物質の状態変化、光の性質の分野がやや低い。 (第2学年時)	全体的に目標値を上回っている。生物と環境、大地のつくりと変化の分野がやや低い。 (第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。 (▽3.8)	目標値を上回っている。 (△8.4)	目標値を上回っている。 (△6.0)

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。 (▽10.6)	目標値を下回っている。 (▽7.8)	目標値を下回っている。 (▽9.4)

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をやや下回っている。 (▽2.7)	目標値をやや上回っている。 (△0.1)	目標値をやや下回っている。 (▽1.4)

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・発問やプリント等(小テストやそのやり直しも含む)で知識の定着を図る。 ・基礎的・基本的な器具の操作に触れる機会を増やし慣れさせるようにする。 ・タブレット PC に触れる機会を増やす	予想→準備→実験→結果まとめ→考察の流れを実験で意識させて行うようにする。	単元導入時、これからの授業内容に関連した内容のクイズや動画・図などから授業への関心を高める。また、授業中の持ち物や提出物の徹底。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・発問やプリント等(小テストやそのやり直しも含む)で知識や基本的な器具の操作の定着を図る。 ・タブレット PC に触れる機会を増やす。	・実験・観察の予想→結果→考察の流れを意識させて行うようにする。 ・NHKの映像教材を用いて、授業中にならった知識を活用し考えさせる機会をつくる。	・単元導入時、授業内容に関連した内容の動画・図などから授業への関心を高める。 ・継続して授業中の持ち物や提出物の徹底を図る。 ・タブレット PC の適切な使い方に関して継続的に指導する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1, 2年次の知識を踏まえた課題の設定や定期テストの工夫をする。 ・実験器具の仕組みや理屈を理解させ、操作もできるように、器具に触れさせる機会を増やす。観点別問題を解いて強化する。 ・タブレット PC に触れる機会を増やす。	・実験・観察の目的から結果を論理的に推測し、結果・考察から実験・観察の検証が行えるようにし、習得した知識をより深い学びに繋げられるようにする。	・実験・観察から習得したことがどのように社会で活用されているかを知り、より深い学びに繋げられるようにする。